

(当センター事務局が公表資料をもとに作成)

「附属書 I 国の京都議定書（第一約束期間）の達成状況」（要旨）
～すべての締約国が達成に目途～

国立環境研究所地球環境研究センター

- △ 国連気候変動枠組条約事務局ホームページで公開されている各国の京都議定書目標値と達成状況を取りまとめ。
- △ 京都議定書では、第一約束期間(2008-12年)において、附属書 I 国（先進国及び東欧・ロシアの市場経済移行国）全体で温室効果ガス排出量を 1990 年水準より少なくとも 5 % 削減。国別では日本▲6%、ロシア0%、欧州連合（15カ国）▲8%、また欧州連合の目標値は加盟各国に再分配。
- △ 第一約束期間の平均排出量（森林等吸収源・京都メカニズムクレジットを加味せず）を基準年比と比較した場合、目標クリアの先進国は23カ国中11カ国。市場経済移行国のロシア及び東欧諸国（13カ国）では、1990年代前半の経済崩壊の影響が大きく、ほとんどの国が排出量を大幅に減少、スロベニア除きの12カ国では森林等吸収源・京都メカニズムクレジットを加味しないで目標達成。
- △ 各国の排出量に森林等吸収源・京都メカニズムクレジットを加味すると、附属書 I 国すべてが目標達成。
- △ 排出量に影響を与えた要因を見ると、2008-09年は世界金融危機による急激な景気後退により減少、2010年はその後の景気回復で増加に転じました。

以 上